

# 広報ちゅうじん

8月1日発行  
編集者：狩保

## 糖尿病治療と合併症

糖尿病が歴史上初めて確認されたのは今から3500年前、エジプトのエベレス・パピルスに「多量の尿を出す病気」という記述からです。しかし、糖尿病が膵臓の病気であることがわかってきたのは19世紀後半で、近世まで糖尿病はやせ細り、尿が多く血液と尿中に糖分が急激に上昇し死にいたる病気として恐れられていました。

1921年、カナダのトロント大学の生理学研究室でバンティングとベストによりインスリンが発見されました。翌年の1922年にヒトにおいても効果があることが示され、1923年にはインスリンの工業生産が開始され多くの患者の生命を救うことになりました。また、経口血糖降下薬も1950年代以降、研究開発が進みました。治療薬開発の目覚ましい進展により生命維持が可能となりましたがそれとともに今後はいかに合併症を予防するかという大きな課題が生じてきました。今や糖尿病は代表的な生活習慣病の一つで患者数は年々増加しています。糖尿病は初期には自覚症状がなく、健康診断で高血糖を指摘され気づく場合が多く、また、高血糖を指摘されてもそのままにして合併症が起こってから治療を開始する人も多いのが現状です。糖尿病での高血糖が続くと血管の障害がおこります。血管障害には細小血管障害と大血管病変(動脈硬化)の2つがあります。細小血管障害は糖尿病特有の合併症で糖尿病性網膜症・糖尿病性腎症・糖尿病性神経障害が三大合併症として知られています。成人の失明原因の第1位が糖尿病性網膜症であり、人工透析を始め

る原因疾患の第1位が糖尿病性腎症です。大血管病変(動脈硬化)によりおこる合併症の代表的なものが心筋梗塞、脳梗塞です。糖尿病治療の目的はこうした合併症の発症、進行を阻止することにより健康な人と変わらない日常生活がおくれること(GOLの維持)、健康な人と変わらない寿命を確保することなのです。

当院は合併症を発症した多くの糖尿病患者さんのリハビリテーションにも携わっています。私達スタッフは患者さんの社会復帰へのお手伝いをする立場であり、患者さん自身やご家族の苦悩や大変な努力も間近で見ってきました。ですからなおさら検査を受けることや治療を怠らないでほしいと思うのです。

## 高次脳機能障害ってなに？

作業療法士 前川ケン

脳卒中や脳外傷などで手足の麻痺が生じる事は良く知られています。認知・記憶力といった脳の高次機能に関する障害についてはあまり知られていません。今回はこれら高次脳機能障害についてのお話です。

① そもそも高次脳機能障害ってなんなの？

高次脳機能障害とは、主に脳の損傷によって起こる様々な神経心理学的症状のことを指します。その症状は多岐に渡り、記憶障害や、見えていた物が何かわからない(失認症)、考えた動作と違った動きをしてしまう(失行症)、言葉がわからない、または口から出てこない(失語症)といった症状があります。その他、注意力や判断力の低下も見られ、仕事や家事など私たちの日常生活に対し大きな影響を及ぼします。これらの障害は運動麻痺や筋力低下などと違って、見た目では分かりにくく、また自覚症状も薄いため、「隠れた障害」とも呼ばれます。

## ② どんな病気や怪我で起こるの？

高次脳機能障害の原因としては、前述した脳卒中や、頭部外傷の他にも、脳炎などの感染症、溺水や窒息、ぜんそくの発作等によって起こる低酸素脳症などがあげられます。また損傷部位によっては運動麻痺や知覚障害などが同時に起こることもあります。

## ③ 高次脳機能障害って良くなるの？

高次脳機能障害も、他の病気や怪我と同じくリハビリを行うことによって症状の改善が期待できます。例えば記憶障害であれば、文字カードやブロックなどを使って、覚えたものを一定時間保持し、その後思い出すといったトレーニングを繰り返し行うことで、その回復が見込まれます。その他の高次脳機能障害においても同様に、正しい動作を何度も繰り返し行ったり、認識しづらい対象に意図的に意識を向けるといった訓練を根気強く行っていくことで改善を図っていきます。

その他、何らかの代償手段を検討することで、日常生活の手助けを行うこともリハビリでは行っています。

# 片手動作と自助具の活用

高齢者に多いとされている脳卒中による半身麻痺は、近年より中高年代など比較的年齢が若い人にもみられている現状にあります。麻痺の回復に対してのアプローチと併用して私たち作業療法士は片手での動作、たとえば着替えや入浴など両手動作を必要とされる部分を、道具や動作方法を工夫して片手動作が行えるように関わっています。

例をあげると、Tシャツを着るときは、動かしにくい手から通して、次に動くほうの手を通してといった動作方法を患者さんと一緒に練習していきます。入浴時背中が洗えないといった問題に対しては、柄付きブラシやタオルをループ状にするなど、その人に合わせた動作と一緒に考えていきます。

では“ペットボトルやビンのふたがあげきれない”といった問題があるとき、どうやってあけますか？片手であけようとしても、ビンも一緒にくるくる回ってしまい、うまくできない方がほとんどかと思えます。さあ、どうやってあけますか？試してみてください。

### 方法①動作の工夫

① 引き出しで挟んで体で押しながらあける。

\*握力が弱い人は、滑り止めシートを上からかぶせるともっとあけやすくなります。



### 方法②道具を使う方法

② いわゆる自助具を使用して、固定しふたをあけます。

\*その人の持っている能力に応じて、ひとつひとつ対応策を考えていきます。なにか困ったことがあればいつでも担当セラピストに相談してください